

令和 5 年 7 月 7 日

金沢市近郊 私立大学等の特色化推進プラットフォーム（私大等 PF）

令和 2～4 年度の事業評価について

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和 2 年度以降の事業評価について評価委員会を開催することができなかった。

令和 5 年 3 月 27 日の意思決定委員会において、教育関係・自治体関係・産業界関係者から令和 5 年 5 月～6 月に外部評価をいただくことを決定し、令和 5 年 6 月 26 日・28 日に評価者に対して幹事校から事業説明・資料提示のもと、令和 2～4 年度の事業評価をいただいた。

区分	
教育関係者（国立大学 教授）	
総合評価	評語の内容
B	S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不十分である D：不十分である
評価に関するコメント	
<p>本 PF に参加するそれぞれの大学等の強みを活かすために、幹事校のみならず、参加大学等が各 WG を分担した仕組みや指標は適切に整えられている。コロナによる活動が縮小してしまった部分はやむを得ないが、最終年度に向けて目標が達成できることを期待したい。</p> <p>今後の継続に関する課題は PF 内で十分に検討いただくとして、各大学の負荷のバランスを考慮しつつ、十分に効果が期待できる事業から S 評価を狙うように取り組んでいくのもよいのではないかと考える。教職員が大学の壁を越えて交流している姿はすばらしく、ゼミ交流や教職員交流による指標もあるとよいのではないかと考える。「各大学の強みを活かす」という課題については、例えば単位互換事業において、素晴らしい指導をされる教員やその授業を PF として共有することができれば、教育効果も十分に発揮されるのではないかと考える。数字には見えにくい PF 活動の効果についても、どのように把握していくか検討されることを期待する。</p>	

区分	
自治体関係者（地方自治体 職員）	
総合評価	評語の内容
B	S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不十分である D：不十分である
評価に関するコメント	
<p>本 PF においては、各大学がある程度物理的な距離があるにも関わらず、オンライン等を活用して連携を深めて活動していることが伺える。それぞれの大学の強みを活かし、各 WG は概ね計画通りに実施できていることが伺えた。一方、全体としては 2023 年度に達成すべき目標に対し、現時点でクリアできているものが半分もない。まだ伸びる余地もあり、工夫できるところもあると思われるため、今後の活動に期待する。</p> <p>18 歳人口が減少する中、地方創生に向けて競合相手になる大学等が相互に連携する活動は益々求められる。各大学は単位互換の科目提供をして相互に学生を受け入れたり、地元企業のリカレント教育の支援を行う等、地域の大学として産学官が連携する発展的な活動に期待している。</p>	

区分	
産業界関係者（企業団体 職員）	
総合評価	評語の内容
B	S：非常に優れている A：優れている B：妥当である C：やや不十分である D：不十分である
評価に関するコメント	
<p>コロナ禍で計画通り事業を展開していくことは難しかったであろうが努力した姿が伺え、目標に向かって私大等 PF の加盟校が協力して事業を推進していることが認められる。引き続き継続的な事業の推進に期待する。</p> <p>なお、今後の課題として、「地元」の捉え方を石川県のみならず、富山県・福井県を含む北陸三県の広域とすることが望ましい。北陸新幹線が福井まで延伸すると、北陸三県が 1 時間以内で移動できるようになり、「学ぶなら金沢」と憧れる富山県や福井県の学生も多い。金沢で学んだ学生らが富山県・石川県・福井県の“地元企業”に就職して活躍してもらうことも学都金沢の大きな役割だと思う。また、富山県・福井県を含めた更なる住みやすい圏域として他圏域から人を呼び込むなど、北陸の中の「学都金沢」「私大等 PF」としての役割を深めれば、学都金沢の独自性を見出すことができるだろう。さらに、富山県・福井県にも特徴のある企業が多いので、そのような企業と連携を深められると、地域の魅力を学生にも理解してもらえるのではないかと。</p> <p>加えて、全国的に 18 歳人口が減少するという中で、企業にはない教育資源を持っている大学のリスキリング・リカレント教育は、地域の大学として役割・期待度が高い。北陸の広域における企業のニーズを把握し、何ができるかを模索してほしい。</p>	